

授業科目名	戦争と平和	単位数	2
担当教員名	大嶋 英一	担当形態	単独
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>戦争と平和というテーマを日本と近隣諸国の関係から学び考えることで、学位授与の方針のうち特に「多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につける」ことに寄与する。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>国際関係を論ずる際にもすれば陥りやすいのは、日本の視点だけから一面的に物事を見ることである。本コースでは日本を含む東アジア各国の安全保障観を、歴史的視点やナショナリズムの観点からとらえることにより、紛争の要因を多面的に理解すると共に、紛争の平和的解決のために国際社会が行っている様々な努力を知り、共生的な世界を実現するには何が重要か説明できるようになることを目標とする。</p> <p>(テーマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 安全保障観の違い (2) 紛争の要因 (3) 紛争の平和的解決 (4) 共生的な世界を築くために 			
<p>授業の概要</p> <p>安全保障法制の制定は従来の日本の安全保障政策を大きく変更するものとして、国民の間に大きな議論を引き起こした。政府は国際環境が急速に厳しさを増している中で抑止力を高めるために安保法制が必要であると説明してきているが、そもそも国際環境はどのように変化しているのだろうか？抑止力とは何だろうか？本コースでは、国家間の安全保障観の違い、対立の背景にあるナショナリズム、最近の国際情勢の変化等を歴史的視点に立って考察し、国と国が共生する方途を議論する。</p> <p>なお、本コースは別途開講される「国際関係論」の知識を前提としているので、同科目を既習であることが望ましい。</p>			
<p>授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回：日本の安全保障観 第2回：中国の安全保障観 第3回：韓国安全保障観 第4回：国際関係理論と現実 第5回：経済と紛争 第6回：ナショナリズムと紛争 第7回：歴史問題 第8回：領土・海洋問題 			

第9回：紛争の平和的解決

第10回：国際法とリーガルマインド

第11回：核不拡散と核抑止

第12回：国際協調と共生

第13回：中国の台頭と米中関係

第14回：中国の台頭と日本

第15回：共生的世界を築くための日本の役割

定期試験

スクーリングでの学修内容

本コースの4つのテーマ[安全保障観の違い、紛争の要因、紛争の平和的解決、共生的な世界を築くため]についてエッセンスを講義し、受講者と議論する。

テキスト

ジョセフ・ナイ他『国際紛争』（原書第10版）有斐閣 2017年

田中 均『日本外交の挑戦』角川新書 2015年

参考書・参考資料等

- (1) 高校用世界史B・日本史B教科書（基礎的な歴史的事実を確認するために）
- (2) 加藤陽子『戦争まで』朝日出版社 2016年
- (3) 橋本明子『日本の長い戦後』、みすず書房、2017年
- (4) 加藤陽子『それでも日本人は「戦争」を選んだ』新潮文庫 2016年
- (5) 山影進『国際関係論講義』東京大学出版会 2012年
- (6) 白石隆他『中国は東アジアをどう変えるか』中公新書 2012年
- (7) ビル・ヘイトン著、安原和美訳『南シナ海』河出書房新社 2015年
- (8) 長有紀枝『入門 人間の安全保障』中公新書 2012年
- (9) 『日本の軍縮・不拡散外交』（外務省HP <http://www.mofa.go.jp/mofaj/>からダウンロード可）
- (10) 『防衛白書』（防衛省HP <http://www.mod.go.jp/>からダウンロード可）
- (11) 『「平和安全法制」の概要』（内閣官房HPからダウンロード可）
- (12) 芹田健太郎『日本の領土』中公文庫 2010年
- (13) 高坂正堯『国際政治』中公新書 1966年

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。